

(様式3)

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

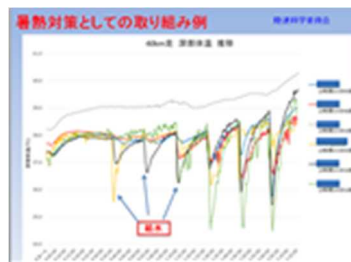
学校名【 兵庫県立社高等学校 】

1 実践テーマ	【 I IV 】
2 実施対象者	対象1 3年生体育科生徒38名 対象2 全校生徒710名 対象3 体育科生徒115名、保護者6名、 学校評議員5名 対象4 生徒50名、地域住民50名、中学生30名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名(体育理論・スポーツ概論) ② 行事名(講演会、課題研究発表会、3学科合同課題研究発表会) ③ その他() (2) 地域における活動 ① イベント名() ② その他()
4 目標 (ねらい)	「オリンピックの機運を高めるために我々ができることは何か」をテーマに、本校生徒を対象にオリンピックへの興味関心を高める要素について考察する。その成果を課題研究発表会で発表することで、学校外の方々のオリンピックへの興味関心を高めることに繋げる。
5 取組内容	第1回(対象1)「オリンピックを知る」 ○各グループが調べに入ったテーマは以下の通り。 ①オリンピックの歴史 ②日本選手団のメダル獲得数(全大会) ③日本選手団のメダル獲得率(種目別) ④視聴率調査(前大会) ⑤各種目の認知度 等 グループでまとめ発表を行う ○発表に対する感想 ・メダル獲得数や、視聴率などから、日本が興味を持つ部分を知ることができたので、周囲の人たちに豆知識として広めるきっかけになるのではないかと感じた。 ・オリンピックが単なるスポーツの祭典ではない、歴史的背景が多くあることと、社会情勢によってボイコットなども存在することを知り、スポーツにおけるルールを守ることや、フェアプレーの精神の重要性は、社会においても共通であると感じた。



第2回(対象2) 講演「2020年東京オリンピックに向けての取組」

講師：日本陸上競技連盟専務理事 尾縣 貢



第3回・4回(対象1)

「オリンピックに参加する」意識を広めるには？

○講演会内容のふり返しキーワード

平和の祭典、クリーンアスリート、人間力、揺るがない心の育成等

○「オリンピックに参加する」という視点を付け加え、第1回の各グループのまとめを再考察

①オリンピックの歴史→自国開催においての支えるスポーツとしての参加数 ※長野オリンピックを対象

②日本選手団のメダル獲得数(全大会)→獲得数と競技人口の比率

③日本選手団のメダル獲得率(種目別)→④の視聴率との比較

④視聴率調査(前大会)→瞬間最高視聴率

⑤各種目の認知度→本校生徒を対象としたアンケートを実施。

○全体を通しての感想

・尾縣先生の講演において、「オリンピックに参加する」が出場だけでなく、見る・支えるといった部分でも参加することに繋がるという事がわかり、僕たちが取り組むべき観点が見えてきてよかった。もちろん自分たちが出場するというのが大切である。

・平和の祭典と呼ばれるように、アスリートが守るべきものというものを実践していくためにも、揺るがない心が大切と改めて実感した。その心がアンチドーピングに繋がったりしていくのだと感じた。

【学習のまとめ】オリンピックに参加するという意識づけは、見る・支えるという部分を大切に、広めていく必要がある。

体育科課題研究発表会に向けて各グループで研究を進める。

第5回(対象3) 体育科課題研究発表会で発表を実施






体育科 3学年 115名

保護者 6名

学校評議員 5名

本校職員 20名

	<p>第6回（対象4）3学科課題研究発表会</p> <p>○地元の商業施設において、本校の3学科合同発表会において成果を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者 本校生徒 約50名 地元中学校関係者 約30名 地元住民 約50名 地元ケーブルテレビ 神戸新聞より取材を受ける   
<p>6 主な成果</p>	<p>3学科合同課題研究発表会は、他学科と一緒にすることで、多くの参加者がみられ、オリンピックの機運を高めることに繋がった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表者の感想 長い時間をかけて、調査や研究をしてきたが、最も大切なことは、自身が出場したとしても、誰のために戦うのか、努力するのかということが重要であり、その思いが多くの人たちに感動を与え、それが応援となって再び自分に返ってくるものだと感じた。機運を高めるということは、多くのアスリートを助けることにつながり、それが国を愛し、助けることに繋がるという事もよく理解できた。 ・参加者の感想 社高校体育科が行っているオリパラムーブメントの発表を見た。一見当たり前のようなことでも、多くの選手や関係者を助けることで繋がるのがわかった。 オリンピックと言えば、ただ見て感動したり、興奮したりするもののように感じていたが、その思いが多くの人に関わっていくことになり、その気持ちを伝えていくことをしていけないといけないと感じた。高校生でもそう思えるなら、大人の私たちももっと関わっていくべきと感じた。
<p>7実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート等を実施し分析したデータを発表で用いた。 ・トップアスリートや指導者の講演会と事前指導・事後指導を有機的に関連付ける。講演会でオリンピックに対する生徒の考え方に変容が見られ、研究の方向性も明確となった。
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・内容がオリンピックに偏ってしまい、パラリンピックについて扱うことができなかった。 ・オリンピックについての研究という頭だではテーマが大きすぎたため、資料検索するまでに時間がかかってしまった。最初にテーマの絞り込みをさせる必要があった。 ・発表対象者を明確にしておく必要がある。

<p>9来年度以降 の実施予定</p>	<p>○本校体育科ができること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校へのアプローチ 本校体育科が行っている集団演技に、オリンピックに関するものを取り入れ、中学校へ出向いて演技を披露する。紹介と共に、オリンピックへの意識づけを行う。 ・パラリンピックとの関連性 今年度はオリンピックに焦点をおいたが、パラリンピックへのアプローチも必要と考える。本校の人権国際理解部とのコラボレーションで、パラリンピック種目の実技を取り入れたい。 ・今年度の課題研究では、認知や意識調査を中心に行った。次年度は「見るスポーツ」と「支えるスポーツ」の観点から調査し、調査結果を元にボランティア活動などへの参画・実践を行いたい。
-------------------------	--